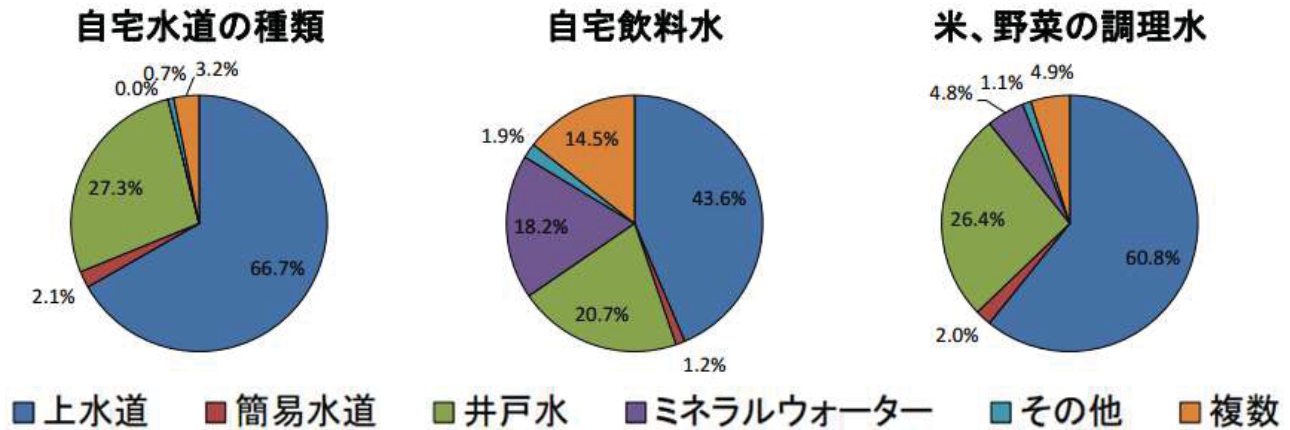


WBC受検者 問診票まとめ 水道水、飲料水について  
 2012.9.3～2012.11.8施行  
 三春町団体申込対象 (n= 1,383 )



自家野菜、福島県産、福島県外産、水道水、ミネラルウォーター等、様々な選択をしていたが、ホールボディカウンターの検査結果には差はなかった。

## 福島県による内部被ばく検査結果

平成24年3月～平成26年6月

	預託実効線量	
	1mSv未満	180429人
検査結果	1mSv	0人
	2mSv	0人
	3mSv	0人

1～3mSvの方はこれまで26人であるが、すべて平成24年2月までの検査

# セシウム摂取量と被ばく量

• Q セシウム137を1年間に何ベクレル摂取すると、1mSvの被ばくをするでしょうか

• A 約80,000ベクレル  
(1日約200ベクレル)

セシウム134、137の存在比や小児への影響も考慮して、全ての年齢で内部被ばく1mSvを超えない年間セシウム摂取量は 50,000ベクレル

87

## お母さんからの質問

ホールボディカウンター検査で、検出限界以下と言われても、ゼロではありませんよね。

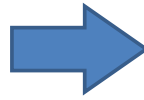
だったら、健康影響があるはずですよね？



# 検出限界ぎりぎりの場合

検出限界が300Bqの機械で、検出限界以下であった場合、

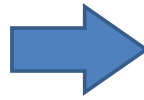
1歳未満の赤ちゃん  
セシウム137 300Bq



約0.010mSv/69年  
(10  $\mu$ Sv)

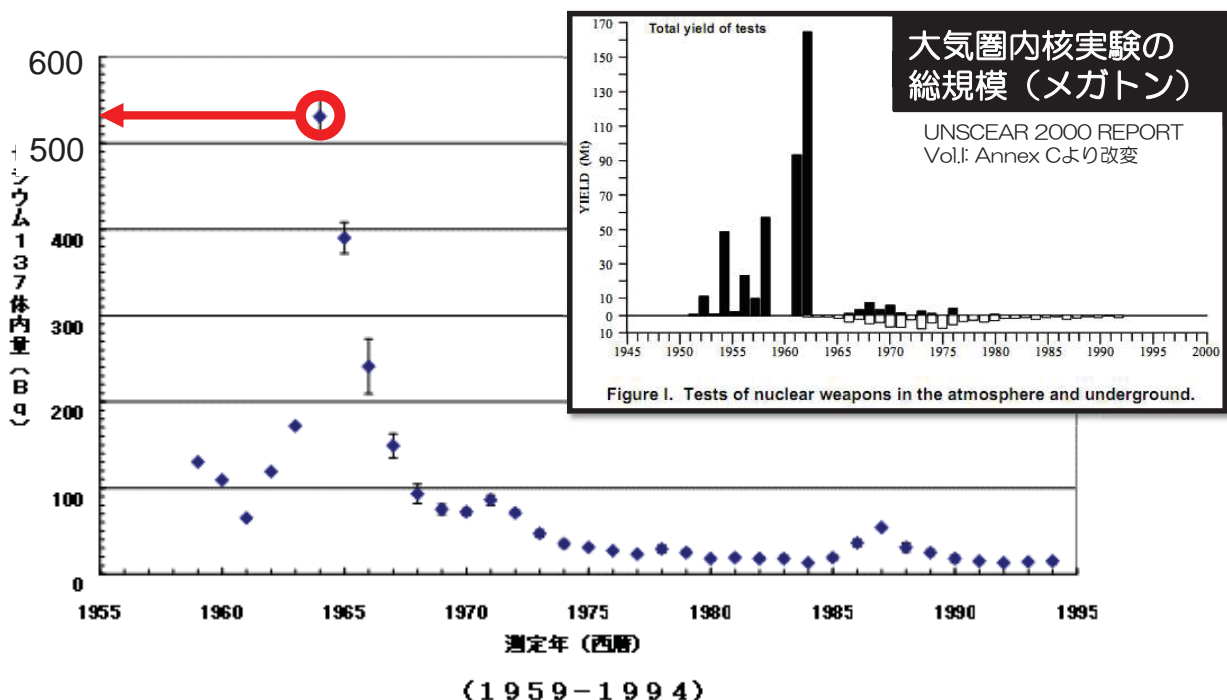
胸部単純X線写真1回分の6分の1程度

成人  
セシウム137 300Bq



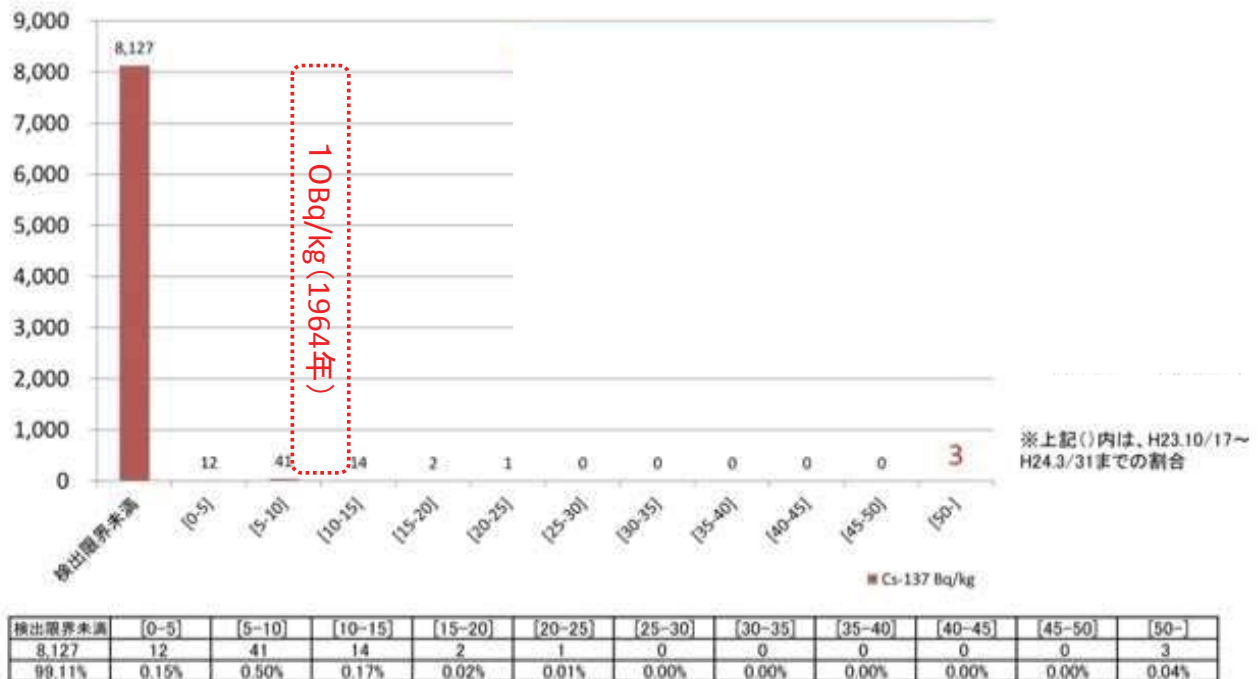
約0.011mSv/50年  
(11  $\mu$ Sv)

## 日本人成人男性のセシウム137体内量の推移



下記出典のFig.2の不要部分を消し、1994年値を追加し、さらに図2.3から推定した1959年から1962年まで4年間の体内量を追加して改変

図1. ひらた中病院で計測したセシウム137体内放射エネルギー別被検者数  
 H24.4/1～7/31施行 CANBERRA社製 FASTSCAN  
 福島県広域、周辺県全年齢対象(n= 8,200 )



公益財団法人 震災復興支援放射能対策研究所

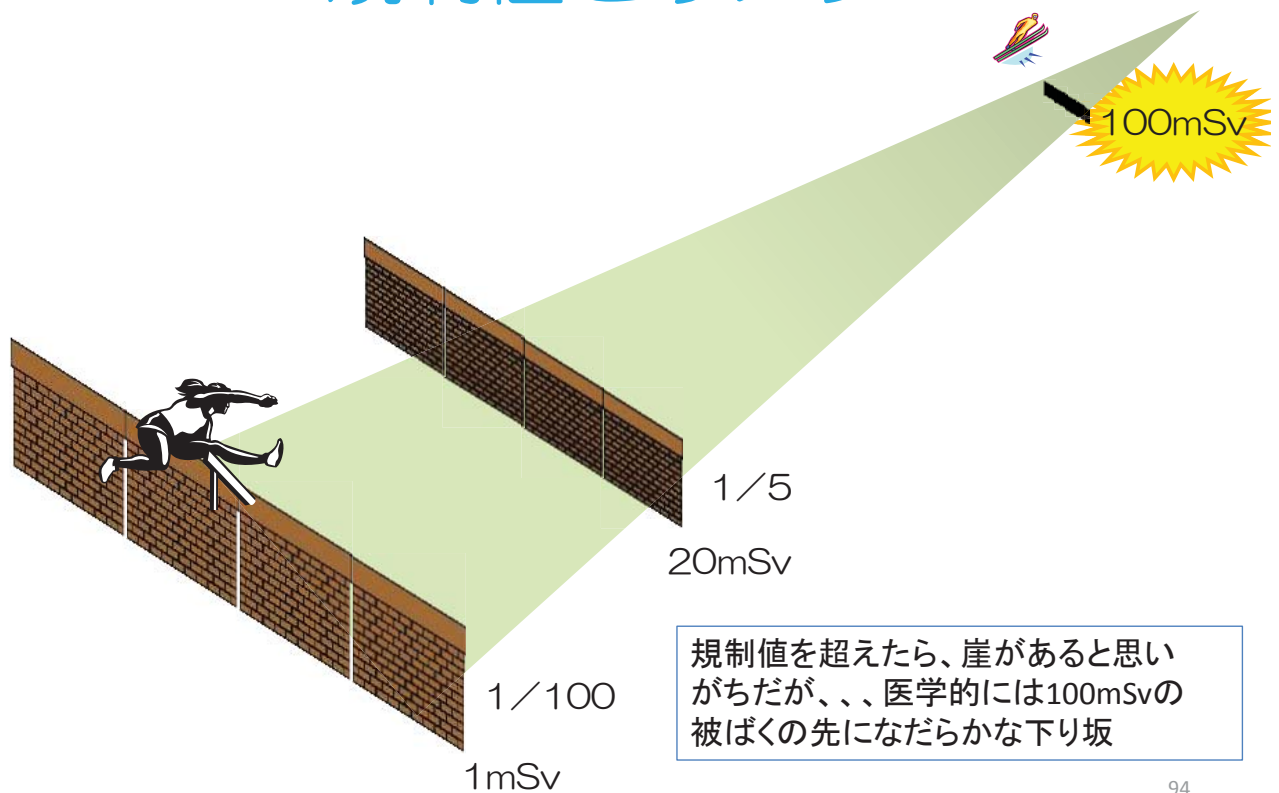
<http://www.fukkousien-zaidan.net/research/index.html>

## 内部被ばく検査のまとめ

- 放射性セシウム検査で、1mSvを超える人は、福島産の食材を食べている人でもほとんどいない
- ほぼ検出限界以下（検出限界300Bqとして）
- 福島県産の食材を選んだ人と、県外産の食材を選んだ人で、差はなかった
- 水道水の人、ペットボトルの水の人でも、差はなかった
- 規制を気にせず、何でも無制限に、継続的に食べている人でも、1～3mSv程度にとどまる
- 時を追ってみると、線量は減少傾向



## 規制値とリスク



# 福島放射線状況のまとめ

- 個人線量計データや食品のデータでは、ほとんどの地域で、目標値に比べて十分に低い
- 実際は、ほぼ生涯10mSv以下と見込まれている
- 市場の流通食品や自家栽培の「野菜」ならば、健康影響のあるレベルの内部被ばくをする可能性は考えられない
- 放射線によるリスクのみを特別扱いして、その他のリスクを高めてしまわないように、バランスをもった判断が求められている

